

神のいつくしみの分配者、マザー・テレサ

ヨハネ・パウロ二世は、私の好きな教皇様の一人ですが、2014年4月27日に、私は、聖ペトロ広場で、ヨハネ・パウロ二世の列聖式に参加することができました。それは、神の慈しみの主日でした。今年の巡礼で、私たちは、2016年9月4日に、バチカンで、有名な、マザー・テレサが、聖人の列に加えられ、カルカッタの聖テレサとなられた列聖式に参加する恵みを受けました。マザー・テレサの列聖式は、いつくしみの特別聖年のハイライトのひとつとなりました。何故なら、彼女自身が、“神のいつくしみの寛大な分配者”として知られており、聖ヨハネ・パウロ二世のもっとも親しい協力者でもあったからです。

私たち、誰もが知っているように、マザー・テレサは、生きていた間に、世界中の注目を浴びていました。彼女は、普通の人でしたが、すべての人、特に、貧しい人、捨てられた人、病気の人、そして、社会の周辺に追いやられている人を受け入れられる、特別に大きな心を持っていました。また、彼女は、人間の命を守るという問題になると、誰にでも、協力を惜しみませんでした。特に、胎児については、その生命をまもることに、自分を託していました。“胎児は、もっとも弱く、もっとも小さく、もっとも害を受けやすいものである”と、絶え間なく、公然と言い続けていました。彼女は、道のわきで、倒れ苦しんでいる人、死にかけている人などに身をかがめて、彼らの中に神の尊厳を見ていました。彼女は、この行為によって、彼女の声を、この世界の力ある人々に聴かせました。彼らが作った貧困という犯罪について、彼らが、自責の念にかられて、反省するかも知れないからです。フランシスコ教皇様は、お説教の中で、次のようにおっしゃいました。“マザー・テレサにとって、いつくしみは、彼女の仕事に味をつけた’塩’でした。いつくしみは、貧困と苦しみのために、もう流す涙もなくなってしまった多くの人の暗闇の中で輝く’明かり’でした。

教皇様が、マザー・テレサについて言われた言葉は、私たちに対しての挑戦だと思います。私たちには、まだ、’塩’と’明かり’があるのでしょうか？ 私たちは、日々、出会う人々の生活に意味を与えているのでしょうか？ 彼らの生活を正しい方向に導いているのでしょうか？ マザー・テレサは、すべての人に希望といつくしみの象徴となりました。放蕩息子のたとえ話を思い出してください。父親は、帰ってきた息子を大喜びで迎え、彼がもどって来たことを祝いました。息子がしたことをとがめませんでした。むしろ、愛をもって、息子を迎えました。許しによって、彼を抱擁しました。マザー・テレサは、人々を、神なる御父の目でもって見ました。彼女は、いつも、人々をいつくしみをもって扱いました。

私たちの巡礼中の活動や、巡礼中に起こったことを振り返ると、今まで経験していないよ

うな多くのことが起こりました。巡礼団の中には、元気で活動的な方もいらっしゃいましたし、また、特別な助けが必要な方もおられました。巡礼の全行程において、私たちは、小さな方法で、神のいつくしみの道具となれるのに、それを軽んじ、または、それに気がついていなかったのではないのでしょうか？ 特別の注意を必要とするメンバーの世話をするのを助けることは、それだけで、いつくしみの行いです。ラテラノ大聖堂において、もう一人のフィリピン宣教会の司祭がくるのを、忍耐強く待っていたことがありますが、これは、7つのいつくしみの行いのひとつです。彼は、数日前に亡くなった姪のためのミサの共同司式をして、祈っていたのです。神さまは、私たちが、いつくしみの道具であるように、また、天の御父のようにいつくしみ深くあることを望まれます。

マザー・テレサは、よく、次のように言われました。“いったん、イエスを愛してしまったら、すべてのことはそれに続くし、ある意味で、簡単になる。” カルカッタの聖テレサのとりなしによって、いつくしみの特別聖年が、私たちにとって恵みの年となり、私たちが互いに、もっといつくしみ深くなりますように。”